

「学校種間連携による理科の系統的な学習プログラムの研究」

～理科の見方・考え方を踏まえた、児童・生徒の資質・能力の育成～

研究の目的

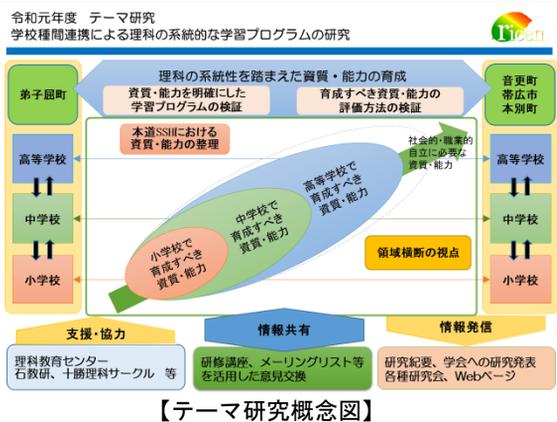
小学校、中学校、高等学校の理科で育成すべき資質・能力を明らかにするとともに、その資質・能力を育む学習プログラムの開発とその評価方法を検討することで、北海道の科学技術系人材の育成をめざす。

連携先

- ・弟子屈町立弟子屈小学校・弟子屈町立弟子屈中学校・北海道弟子屈高等学校
- ・音更町立木野東小学校、音更町立音更中学校・帯広市立帯広南商業高等学校
- ・本別町理科プロジェクト、石狩管内教育研究会、十勝理科サークル、筑波大学人間系 等

研究の内容

- 1 学校種間の学習内容の連続性を踏まえた、育成すべき資質・能力の評価方法の開発
- 2 理科全体の領域横断の視点での、資質・能力の育成を図ることを踏まえた学習プログラムの開発
- 3 学校種間の育成すべき資質・能力を明確にした授業改善事例の作成



【テーマ研究概念図】

研究の成果

- 1 評価方法の開発
弟子屈町、音更町・帯広市、本別町の小・中・高等学校と連携し、学校種間の学習内容の連続性を踏まえた、育成すべき資質・能力の評価方法を開発することができた。
- 2 学習プログラムの開発・改善・実践
・これまで作成してきた関連図や評価方法を基に、学校種間の学習内容と育成すべき資質・能力の系統性を踏まえた学習プログラムの開発及び改善できた。
・実施地域が連携することで、生物・化学・地学の領域を横断した学習プログラムを開発することができた。
- 3 授業改善事例の作成
学習プログラムを実践したことによる教師と児童・生徒の変容を基に、学校種間の育成すべき資質・能力を明確にした授業改善事例を作成することができた。

【授業改善事例の一部】

今後の課題

- ・小・中・高等学校の12年間を見通した、指導と評価の一体化を標榜する形成的な評価方法の開発
- ・探究的な学びを支える本学習プログラム及び授業改善事例の全道・全国への発信・普及

成果の普及

理科教育センターの研修講座・研究紀要等での紹介、各種の学会・研究会等での発表